

年頭あいさつ

公益社団法人 日本監査役協会

会長 後藤 敏文

皆様、新年明けましておめでとうございます。本日は多くの皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。令和最初の年明けに当たり、日本監査役協会を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

昨年は、ラグビーワールドカップの開催で、日本代表の活躍が目覚ましかつたばかりでなく、世界に日本の素晴らしさが改めて発信された年ではなかったかと思えます。今年は、オリンピック・パラリンピックイヤーで、56年ぶりに東京での開催となります。国際情勢は不透明感を増している所ではありますが、スポーツの祭典としてだけでなく、経済面でも大きな盛り上がりとなることを期待するところです。

本日は、昨年11月に会長に就任してから初めて、会員、御来賓の皆様にお目に掛かる機会でもありますので、若干の抱負を申し上げたく存じます。就任以後、交代の挨拶に各所を訪ね、様々な方々にお目にかかりました。私も一監査等委員、一理事として2年間活動してまいりましたので、当協会の重要性、特に会員の皆様がいかに当協会を頼りにしているかということは承知しておりましたが、就任から2か月間で改めて感じましたのは、当協会に対する外部からの信認も大変厚いということです。監査役等に関する監査についての専門性や、公益社団法人としての中立性を基礎とし、歴代の会長を始めとする執行部の努力のたまものであろうかと存じます。新会長として、私も会員の皆様からの、そして関係各所からのご信認を維持し、更に高めてまいりたいと考えております。

そのためには、まずは47期の事業計画を、重点施策として掲げた「監査役制度等に関

する研究及び提言]、「研修活動の強化」、「情報発信活動の強化」の3点を中心に、着実に遂行してまいりたいと考えております。

今年、KAM（監査上の主要な検討事項）の記載や、有価証券報告書の「監査役会等の活動状況」の記載が本格適用となります。KAMについては「監査上の主要な検討事項（KAM）に関するQ&A集」前後編（2019年6月11日及び12月4日）を、有価証券報告書の記載は「2019年3月期有価証券報告書の記載について（監査役会等の活動状況）」（2019年11月26日）を、有効に活用頂きたいと考えております。特に、有報への監査役会等の活動状況の記載は、監査役等御自身の職務の重要性と活動内容を理解してもらう絶好の機会と考えます。是非、事例に頼ることなく、各社で独自の記載をしていただければと思います。個々のお会社の開示は、一つ一つが重要な情報発信であり、監査役等の皆様にも当協会の発信活動の一部を担っていただくことにもなると考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会社法の改正については、昨年の臨時国会で修正付きで成立ということになりました。今後、施行に向けて、政省令に関する意見募集の手続などが順次行われるものと思われませんが、これらについても適切に対応してまいりたいと考えております。

さて、子年は「繁栄」の年、庚子は新たな芽吹きと繁栄の始まりを表す年回りだそうです。前の子年はリーマンショックの年でしたので楽観は禁物で、不祥事対応などにも引き続き目を光らせていかねばなりません。会員の皆様とお会社の繁栄につながる1年であれば願っております。この1年で、当協会の会員は、社数で272社増加し7,085社となり、登録監査役等の数も同じく272名増加し8,925名と、9,000名に近づいております。

監査役等に対する期待がいや増す中、執行部一同ONE TEAMで、監査役等の皆様のお役に立てるよう、全力で活動してまいりますこととお約束し、新年の挨拶とさせていただきます。

（令和2年1月10日 当協会 本部賀詞交歓会にて）